

# 共通科目の学修

## 1. 共通科目の目的

法学部は法律学科、政治経済学科、新聞学科、経営法学科、公共政策学科の5つの学科から構成されています。学生の皆さんは、それぞれの学科に所属して、専門的な学修を行っていきます。同時に、総合科目や外国語科目、体育・健康科目のように、専門的な学修とは別に、知識の幅を広げ、教養を深めるための学修も行っていくきます。

その一方で、法学部では、専門的あるいは教養的な学修とは別に、豊かで実りある大学生活を送ってもらうための「知の技法」を学んだり、実社会を知り、あるいは体験することを通じて、悔いのない進路を考えることを支援するために共通科目を設置しています。

共通科目では、学科における専門的学修や総合科目などの教養的学修と異なり、大学生として学修することの意味や、その後の進路を考えるための指針を学ぶことを目的としています。

## 2. 共通科目の特色

共通科目での学修は、法学部におけるその他の学科目の学修とは、趣を異にしています。そこで学ぶことは、「知識」というよりは「知恵」だということができます。また、大学生活を豊かにするための「方法」だということもできるでしょう。

特に1年次で全員が必修となっている「自主創造の基礎1」「自主創造の基礎2」では、大学とは何か、そこで学ぶことにはどのような意味があるのか、また、いかに学んでいくのかといった「知の技法」を少人数のクラスで、学部共通のシラバスの下で、学修する、まさに「大学入門」というべき科目となっています。

また、「キャリア・デザイン」や「インターンシップ」などのキャリア関連の科目は、学生の皆さん個々の将来の進路を考えるための羅針盤の役割を果たすことが期待されています。

これらの科目は、大学生としての自覚を高め、また、将来の進路を真摯に考える機会を得ることにより、豊かで悔いのない大学生活を送るための大きな助けになるでしょう。

## 3. 共通科目の学修

共通科目の学修は、専門科目や総合科目のように、特定の分野の学問を探究するというものではありません。むしろそのための指針を示し、学修の一般的な方法を学び、将来の進路を見定めるなどがその目標となります。そこでは、漫然と教えられることを覚えるというのではなく、より積極的に学んだことを活用することが重要です。

たとえば「自主創造の基礎1」では、大学で学修していくための具体的な方法などを学びます。しかし、重要なことは、ここで学んだことを、大学での学修の中で、どのように生かしていくかです。その内容を専門的な学修に生かすことができれば、皆さんの大学生活は、より有意義なものになることは間違いありません。その意味では、共通科目の授業は、真面目に出席することは当然として、議論に参加し、教員に疑問をぶつけるなど、積極的な姿勢が大切になります。

全学共通教育科目 (◎印=必修科目 ○印=選択必修科目 ●印=選択科目)

授 業 科 目	単位数	履 修 開 始 年 次								履 修 方 法
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	
自主創造の基礎1	2	◎								必修科目4単位を修得 しなければならない。
自主創造の基礎2	2		◎							

I 群 共通科目履修表 (◎印=必修科目 ○印=選択必修科目 ●印=選択科目)

授 業 科 目	単位数	履 修 開 始 年 次								履 修 方 法
		1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	
キャリア入門	2	●								2単位以上を修得しな なければならない。
キャリア・デザイン	2			●						
キャリア・デベロップメント	2			●						
インターンシップ	2			●						
コンピュータ・リテラシー	2	●								
日本大学の歴史	2	●								
共通科目特論	2	●								
社会貢献	1	●								
日本国憲法	2	●								

## 共通科目領域 教育課程の編成及び実施に関する方針

卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 (コンピテンス)	能力 (コンピテンシー)	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	[DP-1] 社会人として必要な教養と社会科学の知識を修得し、法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて、自らの使命・役割を果たすことができる。	[CP-1] ・「知の技法」に習熟し、それらを駆使して、高度な教養・社会科学の学修を遂行し、法令遵守の精神や高い倫理観を涵養し、自分の使命・役割を探究することができる人材を育成する。
日本及び世界の社会システムを理解し説明する力	[DP-2] 日本及び世界の法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みと、それが直面している問題を理解し、説明することができる。	[CP-2] ・日本大学の歴史を知り、本学が世界の中で有する使命・役割を理解した上で、日本および世界における法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みや諸問題を幅広く見渡し、説明することができる力を養成する。
論理的・批判的思考力	[DP-3] 社会科学の基礎的知識を基に、論理的、科学的、合理的かつ批判的な考察を通じて、新たな「知」の創造に寄与することができる。	[CP-3] ・論理的・科学的・合理的・批判的考察の重要性や仕方を理解・習得し、社会科学の基礎的知識を基に、これらの思考力を活かし、文章作成や口頭発表によって新たな「知」の創造に挑むことができる人材を育成する。
問題発見・解決力	[DP-4] 社会・共同体のさまざまな営みに自ら積極的ににかかわる中で、事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	[CP-4] ・問題解決型思考力の大切さやその思考力を社会で活かす技法を学び、今日の社会・共同体の諸問題への解決策を自ら考案しながら、社会人として社会活動に積極的に参加することができる人材を育成する。
挑戦力	[DP-5] 法規範をはじめとする社会システムに関する専門的知識を基に、あきらめない気持ちをもって、より良い社会・共同体の創造に果敢に挑戦することができる。	[CP-5] ・理想的な社会へのビジョンを持つことの大切さや、自分の専門知識の活かし方、未知未踏のものに取り組む勇氣などを学び、自分自身のキャリアを設計・計画していくことができる人材を育成する。
コミュニケーション力	[DP-6] 多様な伝統・文化・環境に育まれた他者の気質、感性及び価値観を理解・尊重し、社会・共同体の中で積極的にコミュニケーションを実践し、自らの考えを伝えることができる。	[CP-6] ・最新のコンピュータ・リテラシーを活用する技法を修得して積極的に国内外の人々とコミュニケーションを実践し、自分とは異なる気質や感性、価値観を有する他者の考えや立場を理解・尊重しつつ、自らの考えを伝えることができる力を養成する。
リーダーシップ・協働力	[DP-7] 社会・共同体のさまざまな活動において、より良い成果を上げるために、お互いを尊重し、自らすすんで協働するとともに、リーダーとして協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	[CP-7] ・長期的なキャリア・プラン作成において自ら決定していく力を発揮し、そのプランや科目の履修等によって得たビジョンにそって、より良い社会・共同体の建設のために率先して行動することができる人材を育成する。
省察力	[DP-8] 他者からの評価を謙虚に受け止め、自己の活動がより良い社会・共同体の創造に貢献することができたかを振り返ることにより、生涯にわたり、社会人としての自己を高めることができる。	[CP-8] ・リーガルマインドの研鑽に絶えず励むとともに、社会等が抱える諸問題の解決には、他者の提言や批判を謙虚に受け止める必要があることを理解し、より良い社会・共同体の創造のためにそれらの提言や批判を活かすことができる人材を育成する。

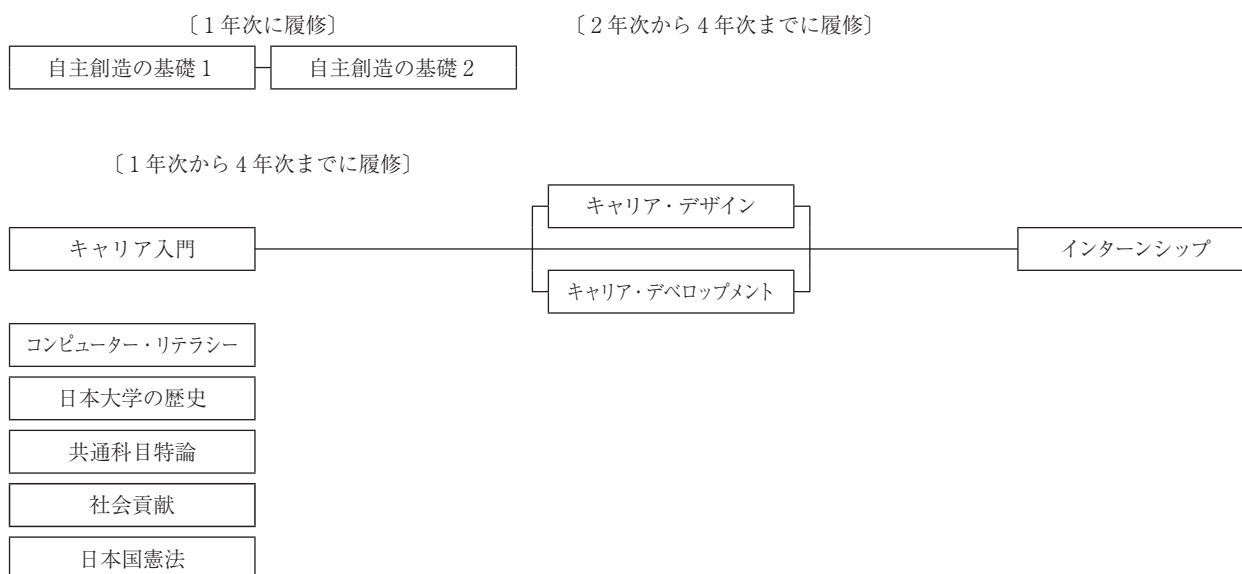
[CP] カリキュラム・ポリシー：教育課程の編成及び実施に関する方針

[DP] ディプロマ・ポリシー：卒業の認定に関する方針

法学部 全学科共通教育

科目群の学修・教育目標

◆共通科目（必修4単位を含め、計6単位）



学修・教育目標

1. 「知の技法」に習熟し、それらを駆使して、高度な教養・社会科学の学修を遂行し、法令遵守の精神や高い倫理観を涵養し、自分の使命・役割を探究することができる。
2. 日本大学の歴史を知り、本学が世界の中で有する使命・役割を理解した上で、日本および世界における法、政治、行政、経済及びジャーナリズムの仕組みや諸問題を幅広く見渡し、説明することができる。
3. 論理的・科学的・合理的・批判的考察の重要さや仕方を理解・習得し、社会科学の基礎的知識を基に、これらの思考力を活かし、文章作成や口頭発表によって新たな「知」の創造に挑むことができる。
4. 問題解決型思考力の大切さやその思考力を社会で活かす技法を学び、今日の社会・共同体の諸問題への解決策を自ら考案しながら、社会人として社会活動に積極的に参加することができる。
5. 理想的な社会へのビジョンを持つことの大切さや、自分の専門知識の活かし方、未知未踏のものに取り組む勇気などを学び、自分自身のキャリアを設計・計画していくことができる。
6. 最新のコンピューター・リテラシーを活用する技法を修得して積極的に国内外の人々とコミュニケーションを実践し、自分とは異なる気質や感性、価値観を有する他者の考えや立場を理解・尊重しつつ、自らの考えを伝えることができる。
7. 長期的なキャリア・プラン作成において自ら決定していく力を発揮し、そのプランや科目の履修等によって得たビジョンにそって、より良い社会・共同体の建設のために率先して行動することができる。
8. リーガルマインドの研鑽に絶えず励むとともに、社会等が抱える諸問題の解決には、他者の提言や批判を謙虚に受け止める必要があることを理解し、より良い社会・共同体の創造のためにそれらの提言や批判を活かすことができる。